

雲林寺報

第12号

2012年夏号

各妻郡長野原町73

大洞山 雲林寺

TEL0279-82-2201



平成24年6月23日 大慈提三大和尚本葬儀にて挨拶をする住職

雲林寺住職 轟 紀久

八月はお盆の月。多くの方が故郷に帰省し、ご先祖様のお墓にお参りをされると思います。久しぶりに家族や親族が集まり、近況などを語り合うひととき、いつまでも残したい日本の風景です。

そんなお盆の風景の中心にあるのが「供養」です。「供養」と聞くと亡き人に対して一方的にお水やお花、お供物をお供えし、手を合わせることをイメージします。

振り返って見てください。手を合わせていると、亡き方があなたにしてくれたことが思い出されませんか？また、あなたの今の生き方を見直す機会になってはいませんか？

「供養」は「人と共に養う」と読めます。人とは亡き人、そして亡き人とご縁のある人。亡き人のよき生き方を想うことで、よりよき人生を養っていく「亡き人とご縁のある人」はその伴走者となります。

どうぞ、「亡き人」と「亡き人とご縁のある人」を大切に。亡き人に導かれよき伴走者と共にあなた自身の人生を養いましょう。あなたは「善き生き方」を次の人につなぐリーダーなのです。



大慈提三大和尚本葬儀葬儀委員長 萩原昭朗
雲林寺護持会長

大洞山雲林寺二十八世住職、故大慈提三大和尚の葬儀に当たり、雲林寺檀信徒を代表致しまして、ここに謹んでお別れの言葉を述べさせていただきます。檀信徒の皆様、本葬儀の際には公私共にご多用の中、ご参列を賜り誠に有難うございました。

和尚は昨年十月中旬ごろ大腿部頸部骨折により入院されました。快方に向かわれる事を願っていた矢先二月二十六日、午前六時五十八分、ご家族の見守られる中、静かに百二歳の生涯を終えられました。

和尚はどなた様にも温厚で優しく、親しく接してくださいださるお人柄であった故に救われた人は数知れずいたことでしょう。

提三和尚は大正一三年に得度を受けられ、仏門の修行に入られました。昭和十一年、二十七才の時より大洞山雲林寺二十八世住職となられ、昭和六十三年までの長き間にわたり檀信徒教化に専念されました。また、昭和五十三年から五十七年までの四年間、曹洞宗群馬県宗務所副所長として御活躍されました。

住職というお忙しい職務のかたわら、長野原町教育長を十四年、長野原町民生委員を八年、人権擁護委員を二十九年、調停委員を十五年と言う長期にわたって、奉職されました。社会福祉の推進に偉大な貢献をされたことは誠に顕著なことと思われまます。そして、勲五等瑞宝章の勲章をはじめ各界からの多くの表彰を受けられました。

大和尚、最後のお別れに当たり、この世の中、又大洞山雲林寺、そして雲林寺檀信徒を、お見守り下さいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、檀信徒の皆様方、提三和尚亡きあとも、雲林寺へ変わらぬご厚誼を賜りますようお願いを申し上げます。提三和尚、どうか安らかに眠り下さい。さようなら。

合掌

今年前半の主な行事報告

一月二日、総代、世話人さんにお集まり頂き、新年祈禱会が行われました。

一月十四日、長野原中央小フェニックス、サッカー部合同坐禅会が行われ、冬の極寒の本堂で一時間、頑張りました。

二月三日、節分会が行われました。夜七時より、厄除け祈禱が始まり、その後豆まきが行われました。多くの方にお集まり頂きました。

二月二十二日、曹洞宗群馬県第六教区の護持会新年会が伊香保で行われ、当山からは護持会長の他総代二名が出席致しました。

四月三日、当山恒例の雲林寺大般若会が行われました。今年は第二十八世大慈提三大和尚の四十九日(大練忌)法要も併せて行いました。

七月一七日、長野原町と姉妹都市である米国リビングストーンよりお客様が見えました。本堂で坐禅や書道を体験して頂きました。

八月五日、浅間山の「天明の大噴火」の供養祭が雲林寺参道内で行われました。供養祭の後、本堂で県埋蔵文化財調査事業団主任調査研究員の黒沢照弘さんに天明泥流による町遺跡についての講話をして頂きました。

(後半の主な行事)
九月二十日(二十六)・秋彼岸
十月八日(体育の日)・雲林寺親睦ゴルフコンペ
十一月二十二日・梅花流県大会
十二月三十一日・除夜の鐘
桐生市民文化会館



8月5日天明供養祭 講話



7月17日 リビングストーンよりお客様



2月22日護持会新年



2月3日 節分会



1月14日 野球・サッカー部合同坐禅会

1月2日 新年祈禱会

平成23年度 会計報告書

収入の部		
前年度より繰越金		325,473
受け取り利息		204
護持会費		1,270,000
(地域外送金分)		666,630
合 計		2,262,307

支出の部		
寺院火災保険料	H23.10/25	595,700
火災共済掛金	H23.11/09	90,092
23年度教区宗務費	H23.05/16	647,940
第六教区住職役員研修費	H23.02/18	80,000
慶弔費(電子郵便・花輪)		125,140
事務雑費(香典袋・認印)		600
ご開山像修繕	H23.11/21	315,000
合 計		1,854,472

差引残高(郵便貯金) 24/03/31現在 407,835

上記のとおり報告いたします。

平成24年3月31日
雲林寺護持会長 萩原 昭朗
会 計 長谷川 誠
山口 次夫

平成22年度 会計報告書

収入の部		
前年度より繰越金(宮崎様より)	H22.04/02	268,064
受け取り利息	H22.10/01	201
護持会費		1,556,500
(地域外送金分)		11,500
合 計		1,836,265

支出の部		
寺院火災保険料	H22.10/28	577,980
火災共済掛金	H22.12/24	90,092
22年度教区宗務費	H22.10/28	647,940
第六教区住職役員研修費	H23.02/18	125,000
慶弔費(電子郵便・花輪)		67,380
事務雑費(香典袋・認印)		2,400
合 計		1,510,792

差引残高(郵便貯金) 23/03/31現在 325,473

上記のとおり報告いたします。

平成23年3月31日
雲林寺護持会長 萩原 昭朗
会 計 長谷川 誠
山口 次夫

護持会会計報告

平成二十二年、二十三年度を報告させていただきます。

本葬儀のご報告

六月二十三日の大慈提三大和尚の本葬儀の際は檀信徒の皆様には大変にお世話になりました。檀信徒葬ということで、総代・世話人さんには準備の段階から何度もお寺に足を運んで頂きまして。当日、世話人さんには受付や、駐車場など、各配置場所にきて頂き、混雑したにも関わらず滞りなく修行できましたことを深く感謝申し上げます。



②



①



④



③



⑤

- ①当日は梅雨の中、晴天に恵まれました。大勢の方にお焼香して頂きました。
- ②午前十時、大梵鐘 おおぼんしょうの音と共に式が始まりました。梅花講員さんに和讃をお唱えして頂きました。
- ③仏事師上殿 ぶつじしじょうでん 本葬儀導師様が位に就かれました。
- ④小師師孫請 しょうししんしょうはい 喪主より導師様にお願いのお拝を致します。
- ⑤納舍利 納経(のうしゃりふぎん) 雲林寺歴代住職の墓地へ納骨致しました。

世話人さん紹介

今回も世話人さんをランダムでご紹介させていただきます。

①名前 **青木 博文さん**

②担当地区

北軽井沢

③趣味・特技

山歩き、魚釣り、バレーボール、野球

④人生で一番嬉しかった事

4人の孫(長男に3人、長女に1人)に囲まれていること。



永平寺

「電話説法」のご案内

0776-63-3399

ご自宅で、仏教・禅のお話が聞ける電話説法です。爽やかな安らぎと心の潤いにして頂ければ幸いです。お話の内容は10日ごとに変わります。

本葬儀収支明細

	収入	支出
6月22日~23日本葬儀香典	10,409,000	
6月24日以降香典	207,000	
寺院御礼(78ヶ寺)		4,800,000
ぐんま想賓館(葬儀代一式、引出物他)		6,123,920
浅間酒造(お清め食事代・バス送迎)		1,436,720
上毛新聞掲載料		218,400
やまぐち電気(モニター設置・撮影)		460,000
草津ナウリゾートホテル(住職26名宿泊・食事)		388,750
しのはら園(造園工事代)		570,000
齊木石材(境内改修工事)		621,000
一場石工業(境内改修工事)		292,950
豊田建築(本堂内床・階段・下駄箱工事代)		570,000
放光(寺院引出物・本葬儀備品レンタル)		950,000
コーエイ(株)テント設置・椅子レンタル		340,174
ミヤマ写真 遺影		45,000
かみつけ信用金庫 手伝い御礼(3名)		9,000
振込手数料 (5社)		1,680
収入合計	10,616,000	
支出合計		16,827,594
計		-6,211,594

※マイナス分は宗教法人雲林寺より負担しました。

梅花流たより

全国梅花流六〇周年記念大会を振り返って 山崎トシヨ

私は平成十八年一月十八日に、雲林寺梅花講員として入講致しました。まだ日の浅い講員であります。

今年三月一六日、伊香保温泉、天坊で行われた勉強会に出席すると、美代子先生より今年の全国大会に出られる方々は群馬県から十四名で、うち二名のみ雲林寺梅花講より舞台上に出ていただくことでした。その二名は今年試験を受けられた、山崎さんと山本さんをお願いしますと言われ、頭が真っ白になりその日から心配で何をすることも上の空でした。

四月三日の大殿若会の日、美代子先生より全国大会へ出るための勉強会が五月九日、高崎の宗務所であると聞いたので美代子先生にお世話になつて車に乗せて頂き、出席させて頂きました。

勉強会は八名のみでした。梅花部長の田川先生に一日中講習をして頂き、感謝しております。

五月三〇日、千葉の幕張メッセで行われた全国大会では群馬県の他、愛知県、栃木県の五〇名で、前列二四名、後列二六名、私たちは後列でした。宙に浮いているみたいな感覚でした！一曲目が終わリステージより退場して自分たちの席に着いたらほっとし、翌晩からやっとよく眠れる！と胸を撫で下ろしました。

今回の全国大会に出席させて頂きましたのは、美代子先生や宗務所の方々、先輩の方々のご協力によるものと深く感謝しております。今後共よろしくお願ひ致します。



5月30日 全国大会にてお唱えをする山崎様、山本様(後列中央)

梅花流初心者講習会

全く初めての方対象に講習会を開催いたします。お気軽にお越し下さい。講師：副住職
開催日：9月4日(火)
時間：19:00~20:00
場所：雲林寺本堂
※筆記用具のみご持参ください。

第4回雲林寺親睦ゴルフコンペ

開催日：平成24年10月8日(月・祝)
場所：草津高原ゴルフ場 7:45集合
スタート：8:30 募集人員60名
プレー費：8,500円 ※ランチ・パーティー代込
参加費：1,000円

今年も雲林寺親睦ゴルフコンペが開催されます。プレー終了後は、雲林寺本堂で表彰式、景品授与等パーティーを開催致します。お申し込みは各地区の世話人、又は雲林寺へ直接お願い致します。

尚、過去ご参加頂いた方へはおハガキにて通知をさせて頂きます。
皆様多くの御参加をお待ちしております！！

梅花流一泊研修に参加して 富澤ふじ江

昨年の研修会では検定のことの先行して、しっかりと聞かなければとの思い緊張の連続でした。

今年はその検定も終わり安堵したのか余裕が出て一泊二日の研修も日程表に従って、それぞれ楽しく済ませることができました。その中の一つに「いのち」についての課題がありました。私は日頃健康について色々と考えさせられていましたので「アレッ」と思いました。というのは夫の入院、そこに付き添う私は介護の毎日でした。入院中は院長先生、主治医の先生から手厚い治療をして頂き、有り難く心強く感謝の気持ちでいっぱいでした。でも、先生方の熱心な治療に報いることが出来ず、結果的に病に勝てず、私にとって掛け替えのない存在の夫を失ってしまったのです。その時に、命の大切さ、重さ、はかなさ、そして不思議さを痛感したのです。

命あるもの、人も、動物も、草花も、小さい虫さえも愛おしく感じました。

今回の梅花研修で「命つないで」のDVDを見せて頂き、映像を通して、慈悲自己、他己、お互いに尊重し、支え合ってゆくという当たり前のことを再認識できたことに意義深さを感じました。とかく希薄がちになる昨今、無縁社会から有縁社会になるようにと、脳裏にきざみ、一日一日を大事に過ごしてゆきたいと感じた研修会でした。

編集後記

當山二十八世大慈提三大和尚が遷化して早半年が経とうとしております。私にとっては紛れもなく祖父であり、師でもありました。沢山のことを教えて頂きました。ただただ感謝のみであります。一〇〇歳まで生きられた人でも人の命は泡ができては消えるようにはかないものです。しかし、その本体の海の水は増えもせず減りもしません。

また、人は雲のように来ては雲のように去ってゆくように移ろうものです。

しかし空の方は別に動いたり静かになったりするものではありません。

無常のいのちにあって増えもせず、減りもしないもの、それが不生不滅のいのちです。

山があり、木があり、花が咲き、鳥も啼き、川には魚も泳いでいます。

それぞれは「だれのものでもない」いのちをひたむきに生きています。

副住職 轟 省吾



次の雲林寺報第十三号は来
年一月二日にお配り致します。